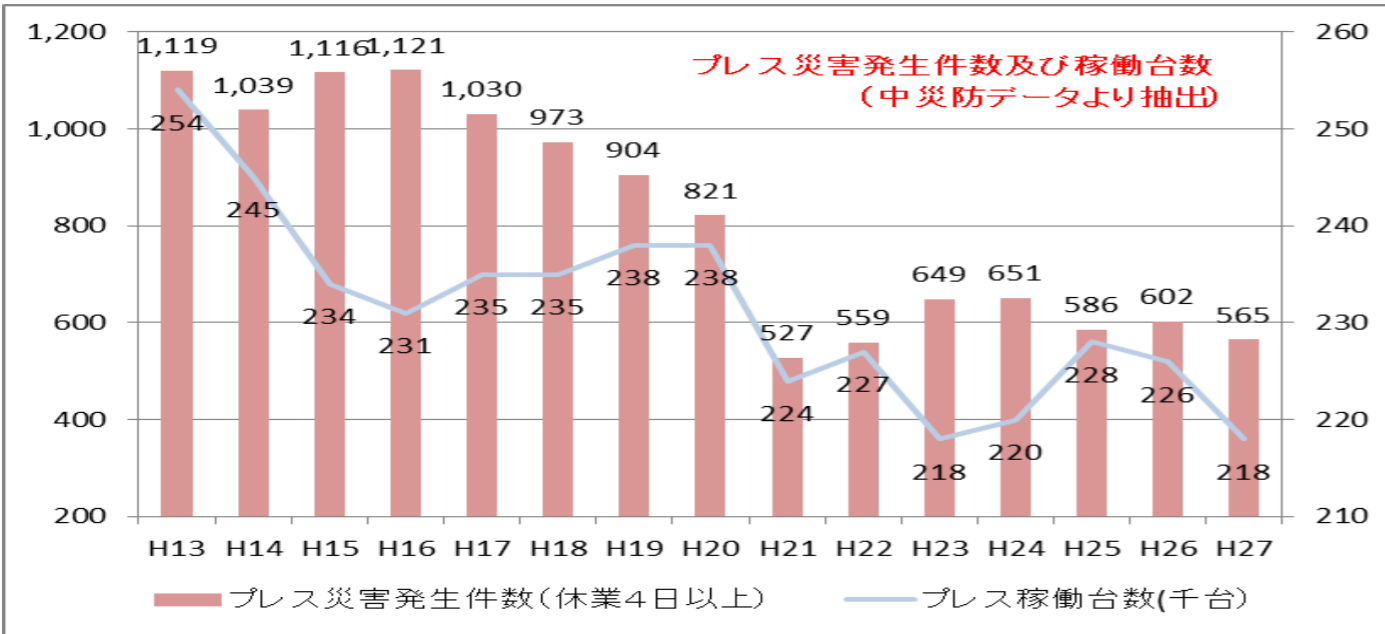


直近の災害データについて



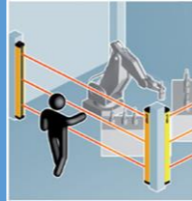
昨年5月17日に厚労省から平成27年度の全産業災害動向が発表されました。休業4日以上死傷災害発生状況では全産業で116,311人で前年度より3,224人、2.7%減少。製造業では26,391人で前年比較1,061人減少、3.9%減となりました。今年度の2月速報では全製造業の死傷者数で前年同月比0.9%増加が発表されており、労働災害発生状況において厳しい現実となっています。プレス災害詳細はまだ未発表であり、5月ごろの平成28年度動向発表が待たれますが、プレス災害撲滅に向けて更にきめ細かい活動が必要と思われます。

会員各社のイチオシ情報

東洋電機株式会社
無線式モニタリングシステム「マジックビー」
ZigBee端末を使ったワイヤレスのセンサネットワークです。複雑なネットワーク形成を各端末が自立的に行うので、環境設定が簡単です。アナログ、デジタル、パルス、温度、湿度、照度など多様な信号形態に対応し、工場設備の稼働状況や故障情報等の状態監視にご利用いただけます。



株式会社小森安全機研究所
侵入防止エリアセンサ ADMIRAL型
マルチビームモデルのエリアセンサADMIRAL AX型は、クレーンやロボットライン等の危険な領域への進入防止として使用されます。投光器と受光器の有効距離は最大60mあり、大型の設備でも余裕をもって設置できます。また、コーナリミラーを使用することにより2面防護や3面防護も可能です。



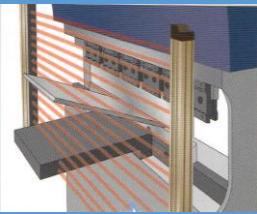
しのはらプレスサービス株式会社
非接触式起動押し釦
ハンドインダイ作業時の両手押しボタン操作の疲労を軽減させ、操作性を向上させたい。こうした課題にお応えするのが、押しボタンの革命児『BREAK-A-BEAM』。起動スイッチに両手を同時に添えるだけでプレス運転が可能です。



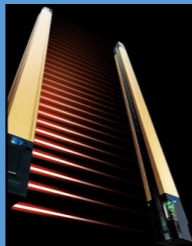
井上電子株式会社
プレス停止性能測定装置
プレス停止性能測定装置IDST-D型は、急停止機構を持つ動力プレス機を急停止させた場合の最大停止時間と、慣性下降値を測定する装置です。プリンター内蔵で、出力も2Cです。自動設定時はストロークの1/2の位置で停止出力を出します。



株式会社理研オプテック
光線式安全装置RPX
固定・浮動ブランキング機能併載型
固定ブランキング機能に加え、二光軸遮光機能を搭載。障害物(設備の一部や材料、加工物等)によって複数のエリアが遮光される場合に、二種のブランキング設定を併用して該当する複数のエリア光軸を無効にすることで安全性を損なうことなく効率的なプレス作業が可能になります。



パナソニックデバイスSUNX株式会社
セーフティライトカーテン
小型・堅牢 セーフティライトカーテンSF4Dシリーズ
・ねじれ、反り、衝撃に強い「スリム&高剛性」ボディ
・全世界で使えるグローバル仕様 [Type4, PLe, SIL3]
徹底したダウンサイジングにより内部ユニットを小型化し、外側ケースの厚みを増加。スリム(幅28mm×奥行30mm)でありながら高い剛性を備えています。型式名SF4D-□-01シリーズは、厚生労働省型式検定合格品(プレス機械・シャー対応)です。



プレス安全通信

平成28年度

春号 No.3

平成29年4月10日
日本プレス安全装置工業会

巻頭言

日本プレス安全装置工業会監査役篠原でございます。1977年日本プレス安全装置工業会設立から早いもので40年、我が工業会のメンバーは、一貫して「安全装置の開発」を通してプレス作業の労働災害の撲滅に邁進してまいりました。幸いにも、行政当局の最適なお指導とユーザの皆様のお御努力の結果、プレス作業に於ける災害は減少の一途をたどり、昨年には年間600件を割るまでになりました。私共、工業会としまして、「安全装置の開発」を通してその運動に参加してこられたことに感銘致しております。がしかし、これからの道のりは厳しいものと思っております。「安全」とは誰でもが口にする言葉ですが、これほど実現の難しいものはありません。工業会メンバーも、単なる安全のための装置を製作するメーカーという意識から、プレス災害を撲滅する当事者の一人であるという認識を持って日々研究努力をしなければならぬと思っています。この一年、安全装置の提供者から、災害撲滅の当事者への意識転換の歳としたいと思っています。



監査役 篠原 敬治
(しのはらプレスサービス株式会社会長)

TOPIX

機械安全・機能安全の考え方が導入されます

「構造規格の一部改訂」や「プレス安全装置の管理指針の改訂」を経て、今の安全の時流になっている国際規格への整合へ向かい、機械安全・機能安全の考え方が、ガイドラインや通達により導入されてきています。

主なものとして

1. 機械の包括的な安全基準に関する指針
2. 工作機械等の制御機構のフェールセーフ化に関するガイドライン
3. プレス機械の金型の安全距離に関する技術上のガイドライン
4. そしてプレス機械の安全装置の管理指針 があげられ、昨年には、「機械安全による機械等に係る安全確保に関する技術上の指針」が示され、機能安全周知のリーフレットも含め、この考え方の導入が加速されているように思われます。当工業会では「構造規格」「管理指針」の啓蒙だけでなく、プレス作業安全の背景としてのこれらの考え方も含め、機会を通じ、情報を発信していく所存であります。

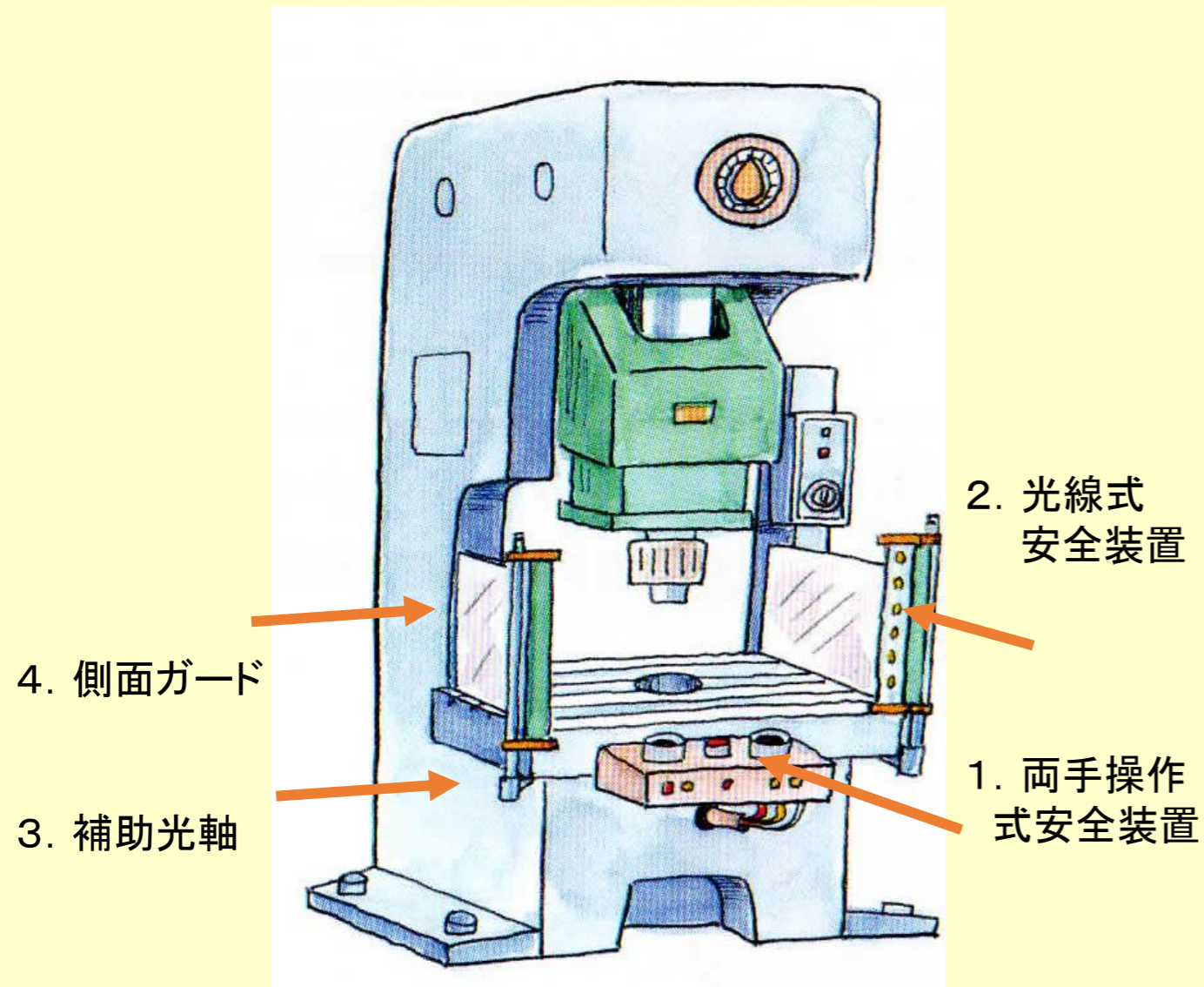
日本プレス安全装置工業会では、工業会のマークを制定し使用を始める事になった。会員各社からマーク案を募集し、今後の会の活動のイメージを的確に表現した図柄となった。セフティのSをデザイン化し、安全を表す『青』と『緑』を強調した。商標登録も行き、各出版物や文書、ホームページ等で有効的に活用していきたい。



日本プレス安全装置工業会 東京都品川区東大井2-6-9 (株)理研オプテック内
会長 三須 肇
* ご質問、お問い合わせは 事務局 070-1220-2012 担当 加藤まで



プレス機械の安全措置について



プレス機械又はシャーの安全装置構造規格及びプレス安全装置管理指針の遵守

1. 両手操作式安全装置
2. 光線式安全装置
「必要な長さ」防護、床面からの高さ、連続遮光幅、安全距離、固定ブランキング/浮動ブランキング
3. 補助光軸等の措置
身体の一部が入る可能性
4. 側面、後面開口部防護(カバー)

プレスブレーキの安全措置について

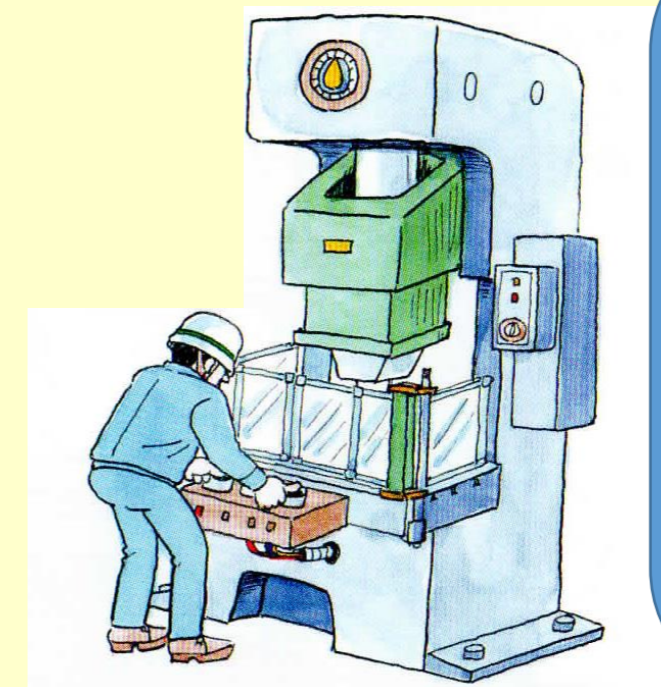


レーザー式安全装置

新たに認可された機器

1. 上刃の直下にレーザー光配置、上刃位置により、ミューティングしつつ安全性と作業性を両立する
2. 欧米のプレスブレーキ安全装置の標準であり、国内でも規格変更後に普及が急伸している。

ガードの活用について



インターロックガード式安全装置

1. プレス機械故障による二度落ちに有効
2. ガードの作動方向により下降式、上昇式、横開き、縦開きが可能、作業内容に応じ使用
3. 安全距離の設定は必要ない
4. リスクアセスメントで特定した危険個所の防護に有効